

五戸総合病院での研修を終えて

(平成30年10月研修医)

大阪市立大学医学部附属病院

初期臨床研修医 戸田 詩織

私は10月の1か月間、五戸総合病院で研修させていただきました。最初は軽い気持ちで青森での研修を申し込みましたが、出発日が近づくにつれ見知らぬ土地で本当にうまくやっていけるのかとわくわくする気持ちに加え、不安もありました。しかし実際には台風で出発日が予定より遅れてしまったにも関わらず、病院の事務の方々や院長先生始め、病院スタッフの方々は温かく出迎えてくださいました。

研修の内容としては初日から外来診療や腹部エコーなどの検査をさせていただきました。特に外来診療は初めての機会であったので最初はとても緊張しました。実際はまず青森の地域ならではの言葉の壁に直面しました。聞き返そうとしても早口の方が多く苦戦しましたが、看護師さんなど周りの方々に教えて頂きながら少しずつ聞き取れるようになったように思います。外来診療をさせていただく中で印象に残っている方がいます。その方は脳梗塞の既往があり、食思不振が続いておりふらつきが出てきたため来院されました。検査では脳梗塞などの緊急性のある疾患は否定的であるためそのまま帰宅可能であると判断しました。しかし食事量が減っている理由がわからず、以前のように食べられるようになりたいとおっしゃられたので数日間入院で様子を見ましようかとお伝えすると、涙を流されてよかったと安心されました。お話を聞いてみると、自宅では一人暮らしのため何かあっても相談する相手がおらず、ごはんが食べられなくなっていることに不安を感じていたとのことでした。結果としては尿路感染症による食思不振が考えられ、抗生剤加療により食欲は回復し自宅に帰られました。青森に限らず地域の至る所で高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が増えていることから、この方のような不安を抱える人たちのためにも地域医療は重要な役割を果たしているのだと感じました。

またある先生がおっしゃっていた言葉の中で、勤め始めてしばらくすれば何の病気かだけでなく、その人の住まいまで大体覚えるようになるというのがすごく印象的でした。地域医療ならではの特性であるとも感じましたが、患者さんのことを本当にあらゆる面から捉えなければいけないことを忘れてはならないのだと学ばせていただきました。

病院での研修以外では、毎週末に弘前や奥入瀬など小旅行へ行ったり、馬肉など五戸の郷土料理や八戸で新鮮な海鮮を食べたりと、地域研修ならではの楽しみがたくさんあり、毎日充実した日々を過ごしていました。

青森での1か月間は貴重な経験をたくさんさせていただき、かけがえのない時間となりました。地域研修に青森を選んで本当によかったと心より実感しています。

最後になりますが、このような貴重な機会を設けてくださった院長先生をはじめ
医師の先生方、事務の方々、看護師さんには心から御礼申し上げます。